

## 予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：土木費 項：住宅費 目：住宅建設費

### 事業名【新】脱炭素社会ぎふモデル住宅改修促進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

都市建築部 住宅課 住宅企画係 電話番号：058-272-1111(内4832)

E-mail：c11659@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,000 千円 (前年度予算額：0 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

市町村が、住宅向けの省エネ改修補助事業を実施するためには、国の補助金を活用して予算を確保する必要がある。しかし、省エネ改修工事に対する市町村職員の知識や審査の際の技術的困難のため、省エネ改修補助制度の創設や、国の補助条件に適合した事業の実施が困難というケースが少なくない。

### (2) 事業内容

モデル市町村を選定し、令和5年度中のモデル市における事例や審査基準等の成果物を他の県内市町村に提供することを条件として、審査基準等の制定作業と市負担の1/2を県が支援する。

**(3) 県負担・補助率の考え方**

住宅の省エネ改修に先駆的に取り組む市町村に対し、県内他市町村のモデルとしての役割を果たすよう協力を求めるため、補助する。

**(4) 類似事業の有無**

無

**3 事業費の積算 内訳**

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	1,000	住民向け省エネ改修補助事業を行うモデル市町村への補助金
合計	1,000	

**決定額の考え方**

**4 参考事項**

**(1) 各種計画での位置づけ**

- ・岐阜県住生活基本計画 目標3 安全で質の高い住宅の供給促進
- ・岐阜県地球温暖化防止・気候変動適応計画 第5章 4 家庭部門～低炭素な新しい生活様式への転換～

**(2) 国・他県の状況**

国は、令和4年度の国予算より市町村が住宅の省エネ改修補助事業を実施した場合に補助金を交付することとしているが、県内での活用事例はゼロである。

**(3) 後年度の財政負担**

県内市町村のモデル事例となる市町村を支援する事業であるため、令和5年度の単年度事業とする。

**(4) 事業主体及びその妥当性**

新築住宅に対する一律の基準適用とは異なり、既に建築されている住宅の改修を各地域の状況に応じて実施する必要があるため、市町村が事業主体となる。

## 県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	脱炭素社会ぎふモデル住宅改修促進事業費補助金
補助事業者（団体）	市町村 (理由) 国庫負担を活用した住宅改修に取り組む市町村を支援するため
補助事業の概要	(目的) モデル市町村に対する補助金の交付 (内容) 国庫活用の際の市町村負担の1/2を補助
補助率・補助単価等	定率 (内容) 国庫活用の際の市町村負担の1/2を補助 (理由) 先駆的に既存住宅の省エネ改修に取り組む市町村を支援し、県内市町村のモデルとするため
補助効果	モデル市町村での取組事例を県内他市町村と共有
終期の設定	終期5年度 (理由) 技術的理由で省エネ改修に取り組むことが困難な市町村に対する参考事例とする事業であるため

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>県内市町村が既存住宅の省エネ改修事業を推進するにあたり、モデル市町村を参考に、審査基準の制定や手続ができるようにする。</p>
---

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R4)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
①住宅の省エネ改修に取り組む市町村	0			1	1	0%

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度
	0	0	0

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"><li>取組内容と成果を記載してください。</li></ul>
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和3年度	
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"><li>事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</li></ul>	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"><li>事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</li></ul>	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"><li>事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</li></ul>	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"><li>事業が直面する課題や改善が必要な事項</li></ul>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"><li>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</li></ul>
---